



日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話- Vol.19 スペイン語担当 大城さん

日本とペルーの文化の違いはいろいろあります。

病院について私が違いを感じるの、とにかくペルーでは医師が患者とたくさん話すことです。患者が尋ねなくても身体の状態や検査結果についていろいろ説明してくれます。また、病院のお見舞いも違います。

日本では、入院した人のお見舞いに行くのに気を遣ったり、迷惑をかけないために行かないこともあります。しかし、私の国では家族や友人が入院したら、お見舞いに行くのが義務とされています。それは、お見舞いを通して愛情や友情を表現するからです。

新型コロナのパンデミックが発生する前、日本で家族や友人が入院したときには、日曜日にみんなでお見舞いに行っていました。ラテンアメリカ系の人たちらしく、10人以上が集まり、おしゃべりしたり笑ったりして、病院で何度も注意されましたが、その理由はわかりませんでした。時が経つとともに日本語の理解ができるようになり、さらに医療通訳の仕事始めてから、日本では習慣が違うことがわかりました。



私は家族や友人に、大人数でのお見舞いは避けたほうがよいことや長時間滞在するのは好ましくないこと、騒いではいけないことなどを説明しなければなりません。

今後もこのような状況は外国人コミュニティの間で再び起こる可能性があります。私は、日本の病院に行った際のマナーについてマニュアルがあればいいのになと思いました。



今月のトピックス

「お産のおはなし」

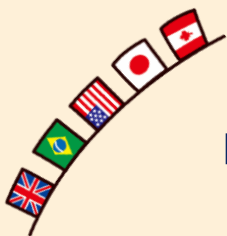
日本でも無痛分娩はずいぶん普及した感がありますが、海外では何十年も前から無痛分娩がスタンダードという国が少なくありません。日本産科麻酔学会のHPによれば、アメリカやフランスは特に硬膜外無痛分娩を受ける妊婦さんが多いことで知られており、70~80%以上とも言われています。薬を使わない「産痛緩和法」も多く、日本でも「無痛」とは別に「和痛分娩」を掲げているところがよく見受けられるようになりました。

日本でお産を迎えた外国人妊婦さんの中には、ラストスパートでたくさん歩かされ、階段を何度も上り下りさせられたという経験が驚きだったという人がいます。母国では無痛分娩が主流なので、初めての自然分娩は恐ろしかったとのこと、かなり強烈な印象だったようです。

妊婦健診が頻繁にあることに戸惑う妊婦さんも時々目にします。また、妊娠中の体重コントロールで医師や助産師さんから「増えすぎ!」と言われて苦笑いの方もよくいます。ベトナムの妊婦さんで妊娠糖尿病疑いが少なくないのは、果物の食べ過ぎかも?と聞いたこともあります。

Medi-Wayはオンライン医療通訳ではありますが、新しい命の誕生に携われたら私たち通訳者も大きな喜びです。不安な異国での出産を、力を尽くしてお手伝いしたいと思います。

「国旗と言語」



パリ五輪の聖火がギリシャからフランスに到着、聖火リレーが始まりました。オリンピックというと、開会式に始まって何かと各国の国旗を目にする機会が増えますね。

ただ、国旗はその国の象徴かもしれませんが、言語の象徴とは言えません。このMedi-Wayだよりでもご紹介しているように、「スペインの国旗」が表すものは「スペイン」であっても「スペイン語」とは言えません。

何語を話すか分からない外国の方がいきなり現れた、そんな時に国旗のマークを見てもらい、「何語をご希望ですか?」と聞くことがあると思います。そんな時、自分の話す言語の国旗が必ずしもそこにはない人もいます。

オリンピックのニュースを見ながら、無事の開催と選手の皆さんの健闘を祈りつつ、ぼんやりと考えた次第です(^^;

